

ひたちなか市における  
「小学生のケータイ等に関するアンケート」結果報告書

平成23年11月作成

ひたちなか市社会教育委員会議

# 目次

はじめに	1
五つの提言	2
「小学生のケータイ等に関するアンケート」集計結果	2
[1] 学年別ケータイ保持者割合	3
[2] ケータイを持たせない理由	5
[3] 「フィルタリング」割合	8
[4] ルールやマナーの指導状況	10
[5] 「ネットショッピング」利用者割合	12
[6] ケータイトラブルに巻き込まれた方の割合	14
[7] 親子の会話の変化	16
[8] 親子間の、ケータイメール・電話でのやり取りの回数	18
[9] 一ヶ月のケータイ利用料金	20
[10] その他のご意見	22
アンケートの文面	23

---

## はじめに

---

### 【ケータイと子どもたちの環境】

子どもたちの生活環境が激変しています。平成生まれの子どもたちの環境は、生まれた時から IT（コンピュータやデータ通信に関する技術）のある環境です。

親の世代の子ども時代には IT はありませんでした。電話も親が取り次いでいたので親は我が子の交友関係を知ることができました。今の子どもたちは、パソコンやインターネットの使い方も学校で習います。最近では、親が IT 機器としてのケータイを子どもに与えるようになりました。お陰で、子どもたちは便利なサービスを利用して世界中の知らない人とコミュニケーションをとることが可能になりました。ということは、子どもが親のまったく知らない人と交流している場合があるということです。そこに落とし穴があります。

心も体も未発達な子どもにとって、ケータイは貴重な体験が得られる半面、純粹なだけに悪質な人やサービスにだまされる事件や事故に巻き込まれる危険があります。

### 【本市の子どもたちの実態調査】

ケータイは私たちの生活を大変便利にしてくれています。いまさら生活からケータイを排除することは難しいでしょう。私たち大人はどうすべきでしょうか。「どうすべきか」の前に「どうなっているのか」を知る必要があるのではないのでしょうか。そう考えて、私たちの市内の子どもたちの実態調査をすることにしました。ひたちなか市の子ども会育成会連合会と、ひたちなか市生涯学習課の協力を得て、市内の小学 1 年生から 6 年生までの子どもたちを対象にしたアンケート調査を実施しました。

調査期間は、平成 23 年 5 月 31 日から 7 月 19 日までの 7 週間。アンケートの集計等の作業は、ひたちなか市社会教育委員と生涯学習課の担当職員たちの手で行いました。

### 【アンケート調査結果の考察】

最近の国レベルでの IT 関係のアンケート調査としては、内閣府が平成 22 年 9 月に公表した「青少年のインターネット利用環境調査」と平成 21 年 5 月に文部科学省が公表した「子どもの携帯電話の利用に関する調査」があります。前者は、10 歳から 17 歳までの青少年 2000 人と、その同居の保護者 2000 人を対象に個別面接方式で行ったものです。後者は、全国の小学校、中学校、高等学校、合計 5000 校に郵送発送郵送回収法により、対象は小学 6 年生、中学 2 年生、高校 2 年生に限定したアンケート調査です。

以上の国レベルでのアンケート調査は対象年齢など、私たちが試みたアンケート調査とは内容が異なっています。しかし、子どもを対象とした IT 関係のアンケート調査として参考になる部分が少なくありません。そこで、相違点を考慮しながらこれらの結果を本市のアンケートの結果と比較しながら考察を試みました。（以下、内閣府のアンケート調査の結果は「内閣府調査」、文部科学省のアンケート調査の結果は「文科省調査」と略称します。）

**このアンケート調査に基づいて「子どもたちが安全で安心してケータイを使用するために」どうすればよいかについての課題を導き出しました。その課題をベースに「五つの提言」としてまとめてみました。この報告書が子どもたちの育成に取り組んでいる市民と行政の活動の一助になることを願っています。**

平成 23 年 1 1 月

ひたちなか市社会教育委員会議

---

## 五つの提言

---

1. 子どもにケータイを持たせる時は、必ずフィルタリングを使用して、フィルタリングを外さないようにしましょう。
2. 子どもにケータイを持たせる時は、ケータイを使う際のルールやマナーと危険性や注意点を指導しましょう。
3. 子どもにケータイを持たせる時の指導だけではなく、持たせた後も、メールの内容や使用料金などのチェックをしましょう。
4. 日頃から、ケータイに頼らない「何でも語り合える」親子関係を、家庭の中につけておく努力をすることが大切です。
5. 学校や家庭、子ども会などの地域で、ケータイについて学ぶ機会を作り、子どもと一緒に親や教師もケータイについての学習をしましょう。

親子の相互理解が基本ですが、子どもをケータイやネットの危険から守るためには、時には毅然とした親(大人)の態度も必要です。

---

### 「小学生のケータイ等に関するアンケート」集計結果

---

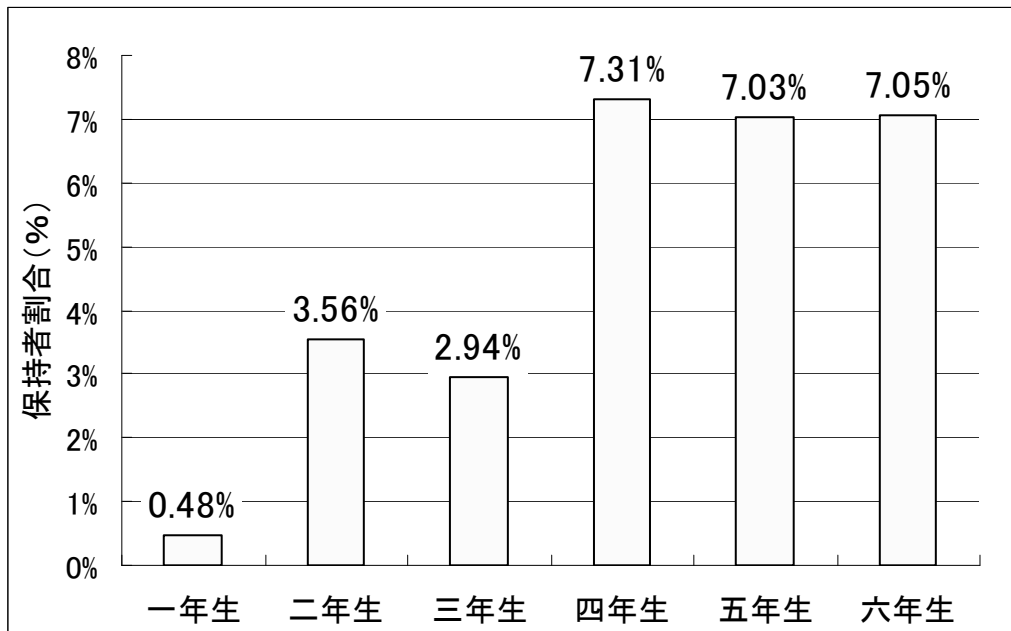
調査期間	平成23年5月31日から 平成23年7月19日まで	集計日	平成23年7月19日
調査対象	市内単位子ども会		

配布枚数	1,670枚	回収率	84.49%	対象人数	1,828人
回収枚数	1,411枚			人数無回答世帯	50件

製作	ひたちなか市社会教育委員の会議
協力	ひたちなか市子ども会育成会連合会, ひたちなか市生涯学習課

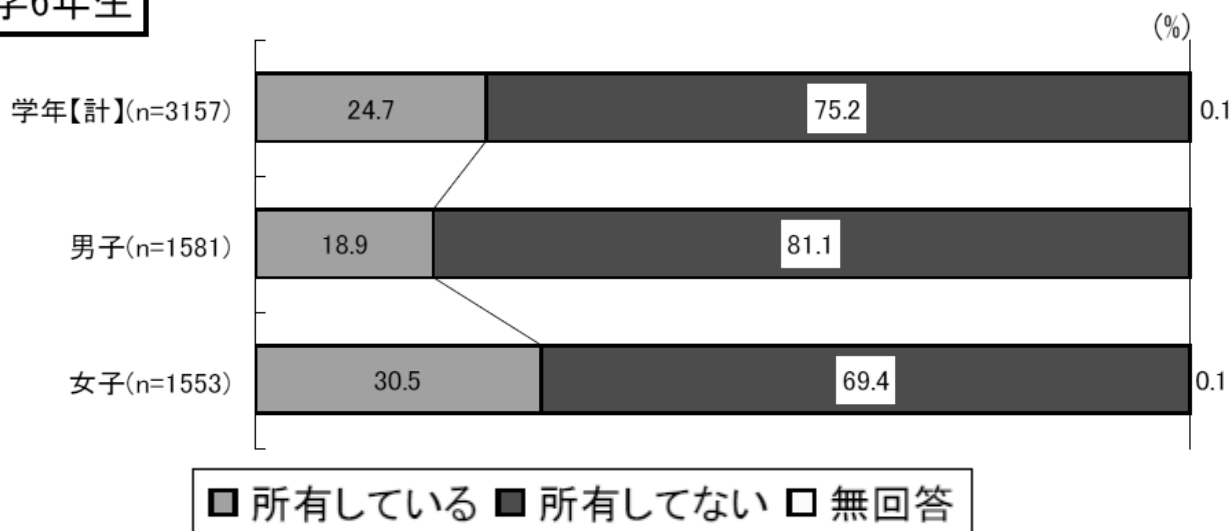
## [1] 学年別ケータイ保有者割合

この表は、学年ごとに見たケータイ保有者の割合です。



参考「文科省調査」調査結果の概要 P.7 「携帯電話の所有状況と所有台数・アドレス数」－「携帯電話の所有状況」－「小学6年生」抜粋

### 小学6年生



### [本市の現況]

ケータイ保有者割合が4年生から急に増えているのは、3年生までは「学童保育」の年齢であることと関係があると思われます。

### [全国調査との比較]

全国レベルでのアンケート調査では、小学生低学年を対象としていないので、本市の学年別比率の傾向が全国的な傾向かどうかはわかりません。しかし、「学童保育」が全国で行われているので、学年別比率は全国的に同じような傾向とみてよいのではないのでしょうか。

## 【考察】

「文科省調査」では、小学6年生の24.7%がケータイを所持しています。これに対して本市の小学6年生は7.05%という少ない数字でした。賢明な親の判断によって持たせていないのかもしれませんが、今後予想されることは、学年別比率の変化はあまりなさそうですが、本市でもケータイの保持者割合は確実に増大すると思われます。

### ＜課題＞

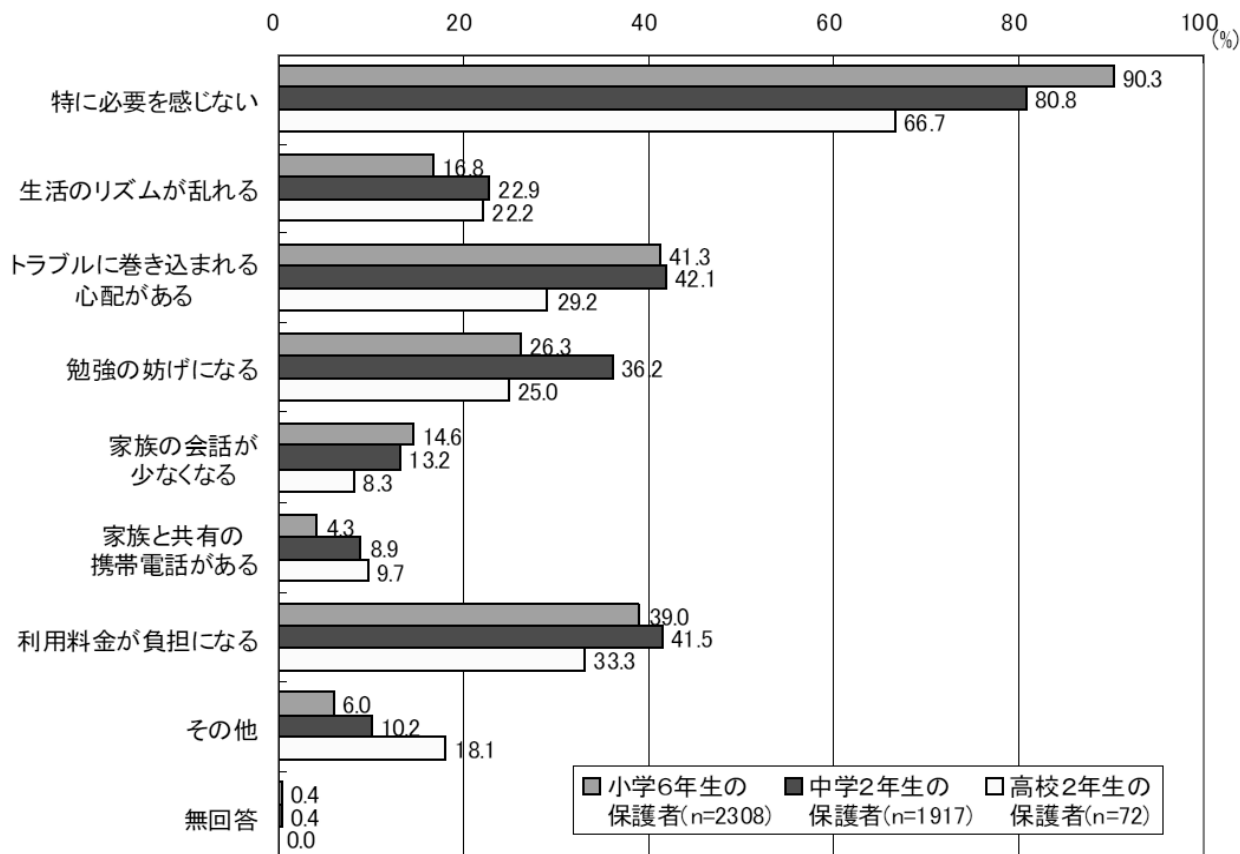
- ・ ケータイを保持する子どもの数は、これから本市も増えると予想されます。
- ・ 子どもが小学生のうちから、親（大人）がケータイについて関心を持ち、ケータイについての知識を身につけておく必要があります。

## [2] ケータイを持たせない理由

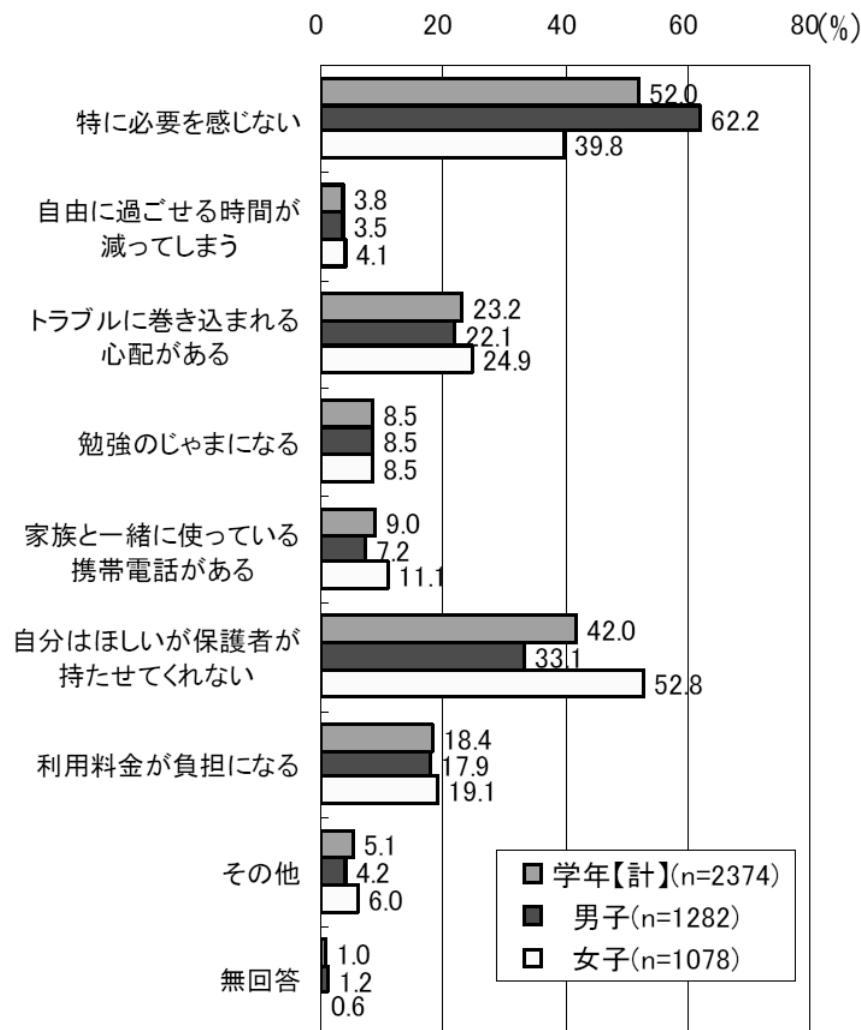
ケータイを持たせていない方の、持たせない理由。

	内容	件数
1	持たせる必要がない	1,165
2	デメリットが多い	113
3	まだ早い	14
4	学校で禁止されているから	2
5	考え中	2
6	何年生から持たせたらよいか悩んでいる	2
7	中学生になってから	2
8	高校生になってから	2
9	学童保育該当学年のため	1
10	家計の事情	1
11	4年生からは考えている	1
12	身近に持っている人が少ない	1
13	持たせると便利だが、学校へ持って行けないと役に立たない	1
14	メモ리카ードの抜き取りが心配	1
15	トラブルがありそう	1
	無回答	6
	計	1,315

参考「文科省調査」調査結果の概要 P.10 「子どもに携帯電話を持たせていない理由（複数回答）」抜粋



参考「文科省調査」調査結果の概要 P.9 「携帯電話を持っていない理由」※携帯電話を所有していない児童生徒への質問（複数回答）－「小学6年生」抜粋



**【本市の現況】**

「持たせる必要がない」が88.5%、「デメリットが多い」が8.5%、「まだ早い」が1%の順で、「持たせる必要がない」が圧倒的に多数でした。本市の子どもたちのケータイ所持者が少ないので理解できる結果だと推測できます。

**【全国調査との比較】**

「文科省調査」でも、「子どもに携帯電話を持たせていない理由」で、「特に必要を感じない」が90.3%、以下「トラブルに巻き込まれる心配がある」、「利用料金が負担になる」の順になっていて傾向は同様です。しかし、「文科省調査」の児童生徒の回答には「携帯電話を持っていない理由」の2番目に、「自分は欲しいが保護者が持たせてくれない」が42.0%にもなっているのが気になります。

**【考察】**

本市の場合も親の回答に「4年生から考えている」「持たせると便利だが、学校へ持っていけないと役に立たない」などの声があり、潜在的な増加傾向がうかがえます。

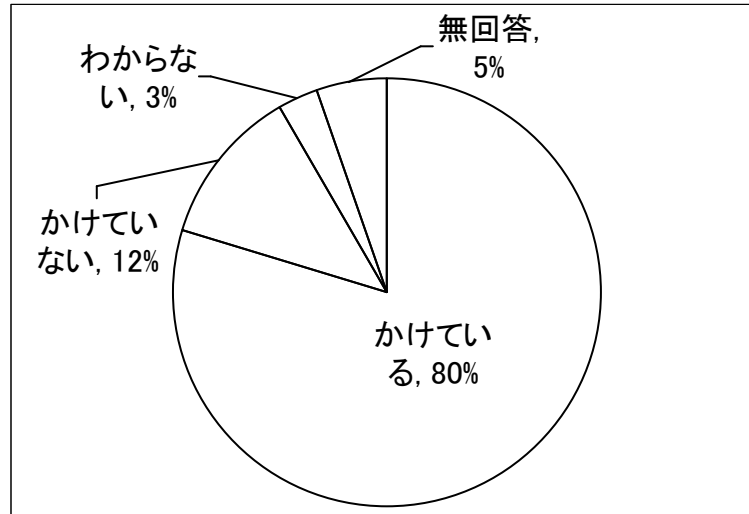


<課題>

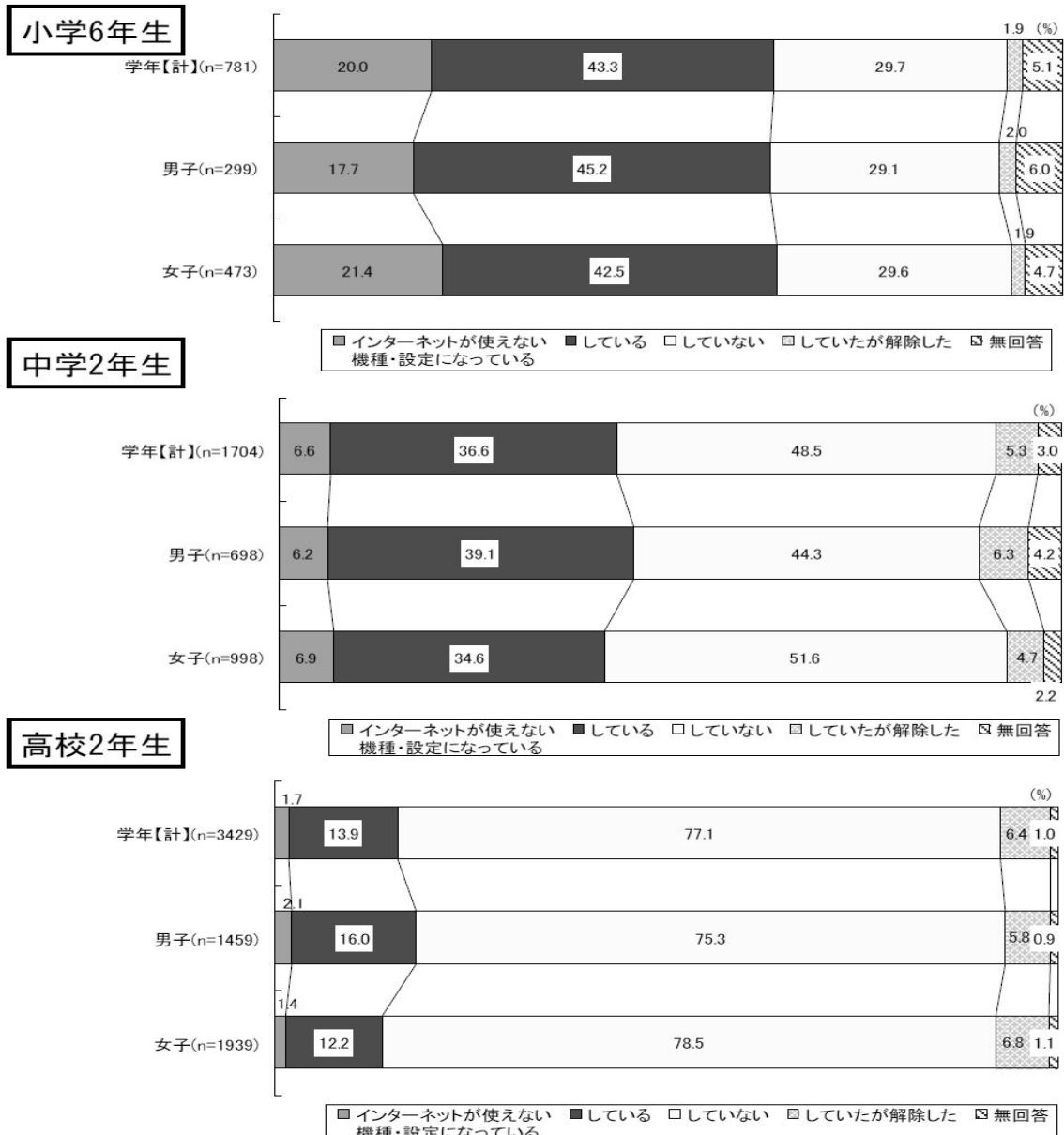
- ・ 小学生の子どもにはケータイを「持たせる必要がない」と考えている親が多いが、ケータイ保持者は潜在的に増加傾向にあります。
- ・ 子どもにケータイを持たせていない親も、ケータイについての知識を学んでおいて、今後に備えておいた方がよさそうです。

### [3] 「フィルタリング」割合

ケータイ保持者のうち、「フィルタリング」をかけている方の割合。



参考「文科省調査」調査結果の概要 P.17 「フィルタリングの使用状況について」抜粋



## 〔本市の現況〕

「フィルタリングをかけている」が80%で、フィルタリングの使用状況は良さそうに思われます。

## 〔全国調査との比較〕

「文科省調査」では、「フィルタリング利用状況」は、「インターネットが使えない機種になっている」と「使用している」の合計が、小学6年生で63.3%、中学2年生では43.2%、高校2年生では15.6%と、年齢が上がるにつれて減少しています。

この、「フィルタリングの使用状況」については、「文科省調査」が、法律でフィルタリングが強制化される以前の調査（調査期間は、平成20年11月21日～12月15日）で、本市の調査が強制化のあと（「青少年ネット規制法」は平成21年4月1日に施行）であったことを考慮して比較しなければなりません。強制化のあとのアンケート調査をした「内閣府調査」（調査は昨年9月）でも、そのことが指摘されています。そこでは、「フィルタリングが強制されたにもかかわらず、3割以上の保護者が‘フィルタリングを使っていない’と答えているのが問題だ。」としています。

## 〔考察〕

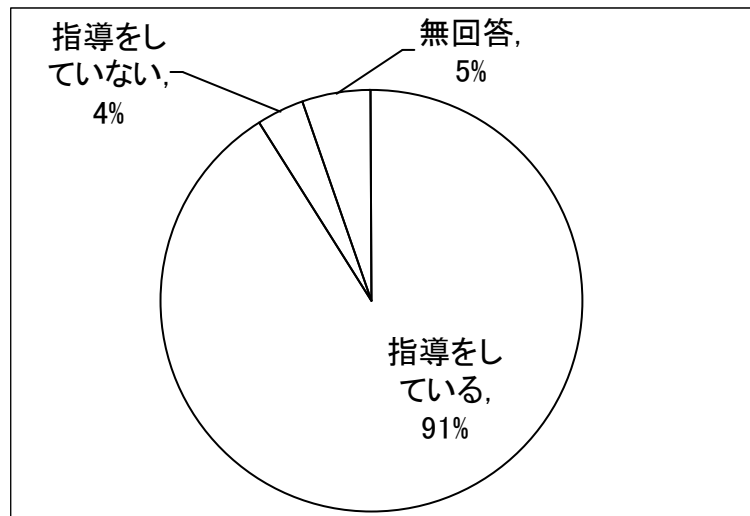
「フィルタリングをかけている」が80%という数字より、「かけていない」12%を問題にしなければならないかもしれません。

### ＜課題＞

- ・ 平成21年4月1日に施行された「青少年ネット規制法」により、法律でフィルタリングが強制化されたことを認識しておきましょう。
- ・ この法律は、子どもをネット被害から守るために施行されたにもかかわらず、本市のアンケートでフィルタリングをかけていない人たちが12%もいたのは問題です。
- ・ 親子の相互理解が基本ですが、子どもをケータイやネットの危険から守るためには、時には毅然とした親（大人）の態度も必要です。

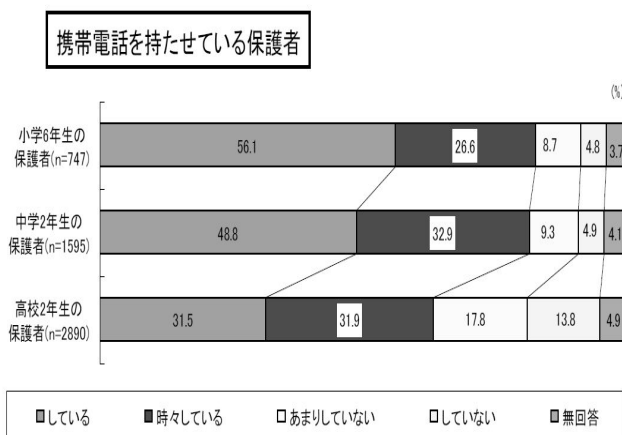
#### [4] ルールやマナーの指導状況

ケータイ保持者のうち、ケータイを使う際のルールやマナーの指導をしている方の割合。

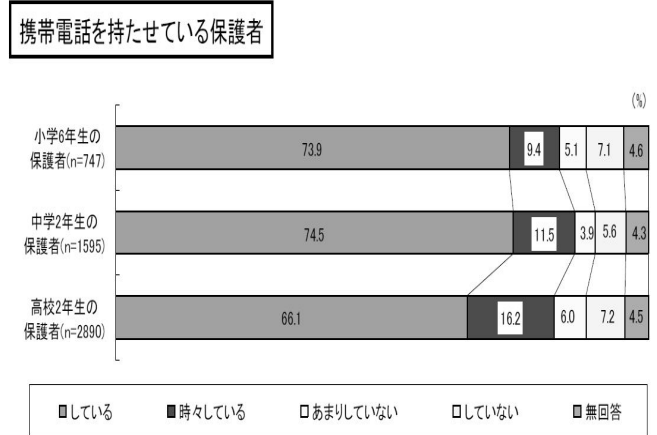


参考「文科省調査」調査結果の概要 P.23 「子どもの携帯電話利用への保護者の関心・注意」抜粋

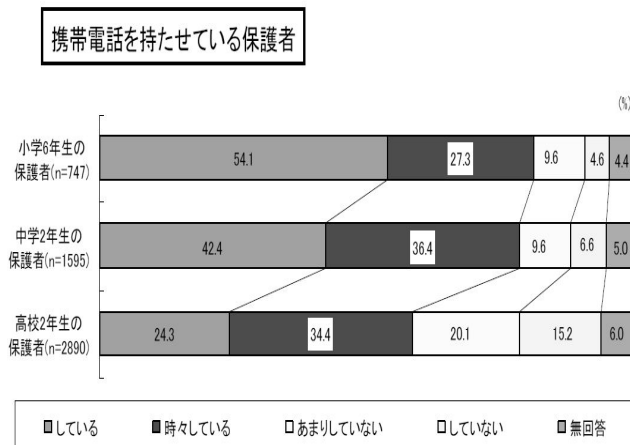
##### (1) 子どもに携帯電話の危険性や注意点を説明しているか



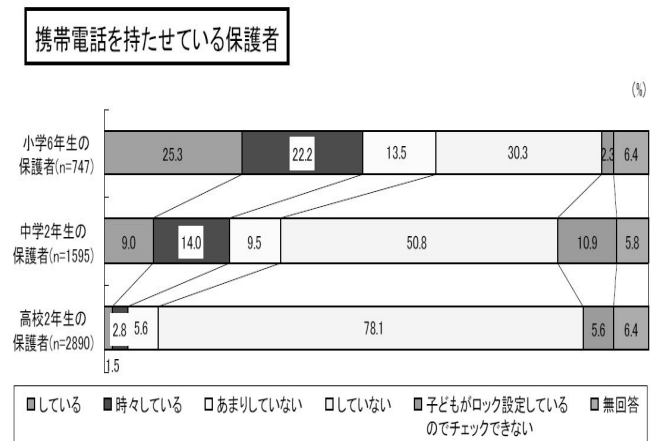
##### (3) 利用明細を見て子どもの使い方を把握しているか



##### (2) 子どもが携帯電話に接する様子を気を付けて見守っているか



##### (4) 子どもが携帯電話のメール内容をチェックしているか



## 【本市の現況】

「指導をしている」家庭が91%もいたのに感心しました。ケータイを使う際のルールやマナーの指導をしてから子どもに持たせるという態度を評価したいと思います。

## 【全国調査との比較】

「文科省調査」では、小学6年生では4つの設問に「している」と答えた保護者は以下の通りです。「子どもに携帯電話の危険性や注意点を説明している」56.1%、「子どもが携帯電話に接する様子を気をつけて見守っている」54.1%、「利用明細を見て子どもの使い方を把握している」73.9%、「子どもの携帯電話のメール内容をチェックしている」25.3%となっています。

## 【考察】

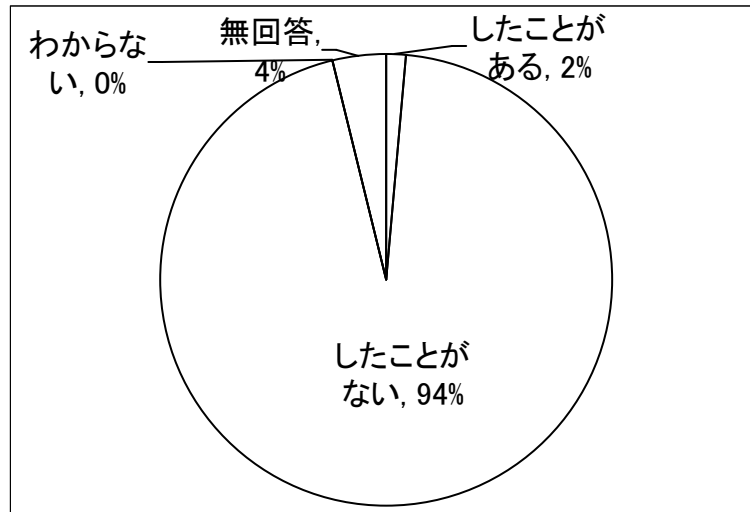
以上のことから、「指導をしている」といっても、ケータイを与えたときに子どもに言葉で言っただけの場合が多いのではないかと思われます。「文科省調査」でも「子どもの携帯電話のメール内容をチェックしている。」が25.3%と少なくなっています。親の「指導」内容が問われています。

### <課題>

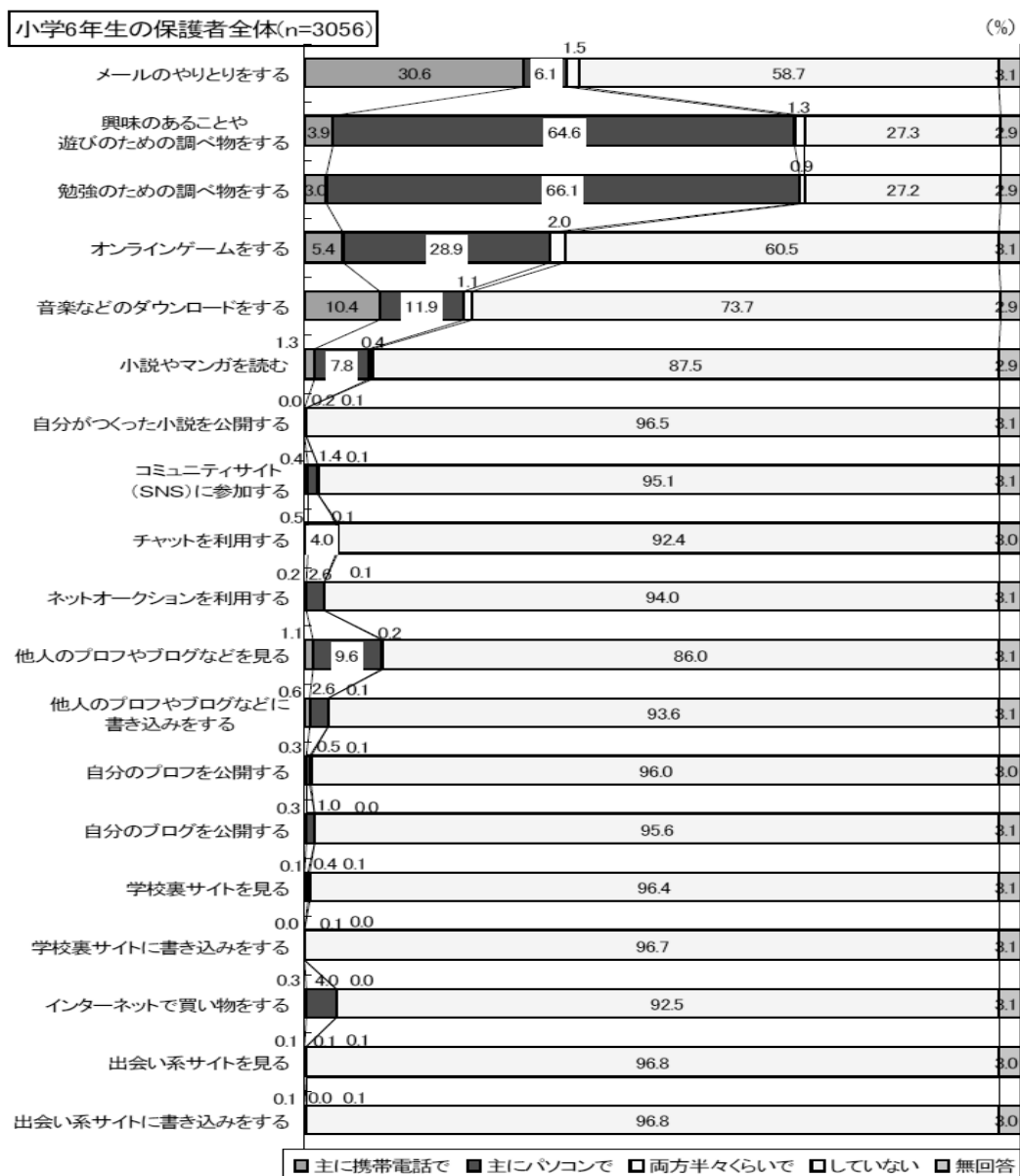
- ・ 子どもにケータイを持たせる時に、ケータイを使う際のルールやマナーと危険性や注意点を伝えましょう。
- ・ ケータイを持たせた後も、時々メール内容をチェックすることが大切です。

### [5] 「ネットショッピング」利用者割合

ケータイ保持者のうち、「ネットショッピング」をしたことがある方の割合。



参考「文科省調査」調査結果の概要 P.15 「保護者が認識する子どものインターネットの利用目的」－「小学6年生」抜粋



### **【本市の現況】**

「ネットショッピング」をしたことがあるが2%です。これは親が認めたものかどうか不明ですが、数としては少ないと思われます。

### **【全国調査との比較】**

「文科省調査」によると、「ネットショッピング」はケータイではなくて、パソコンを利用することの方が多ようです。「文科省調査」では、小学6年生でパソコンを利用して「ネットショッピング」をしたのが4%となっています。

### **【考察】**

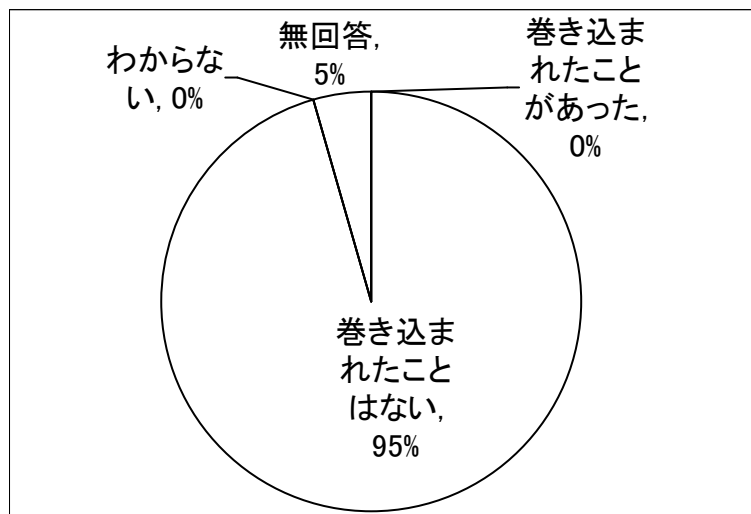
大人は、便利なので「ネットショッピング」を利用する人がたくさんいますが、「ネットショッピング」は、今のところ子どもの世界には、あまり広がっていないようです。

#### **<課題>**

- ・ ネットショッピングは、ケータイではなくパソコンを利用することが多ようです。
- ・ 小学生が親の了解のもとでネットショッピングをする場合は、親の責任で子どもに、ネットショッピングについての注意点を指導するようにしましょう。

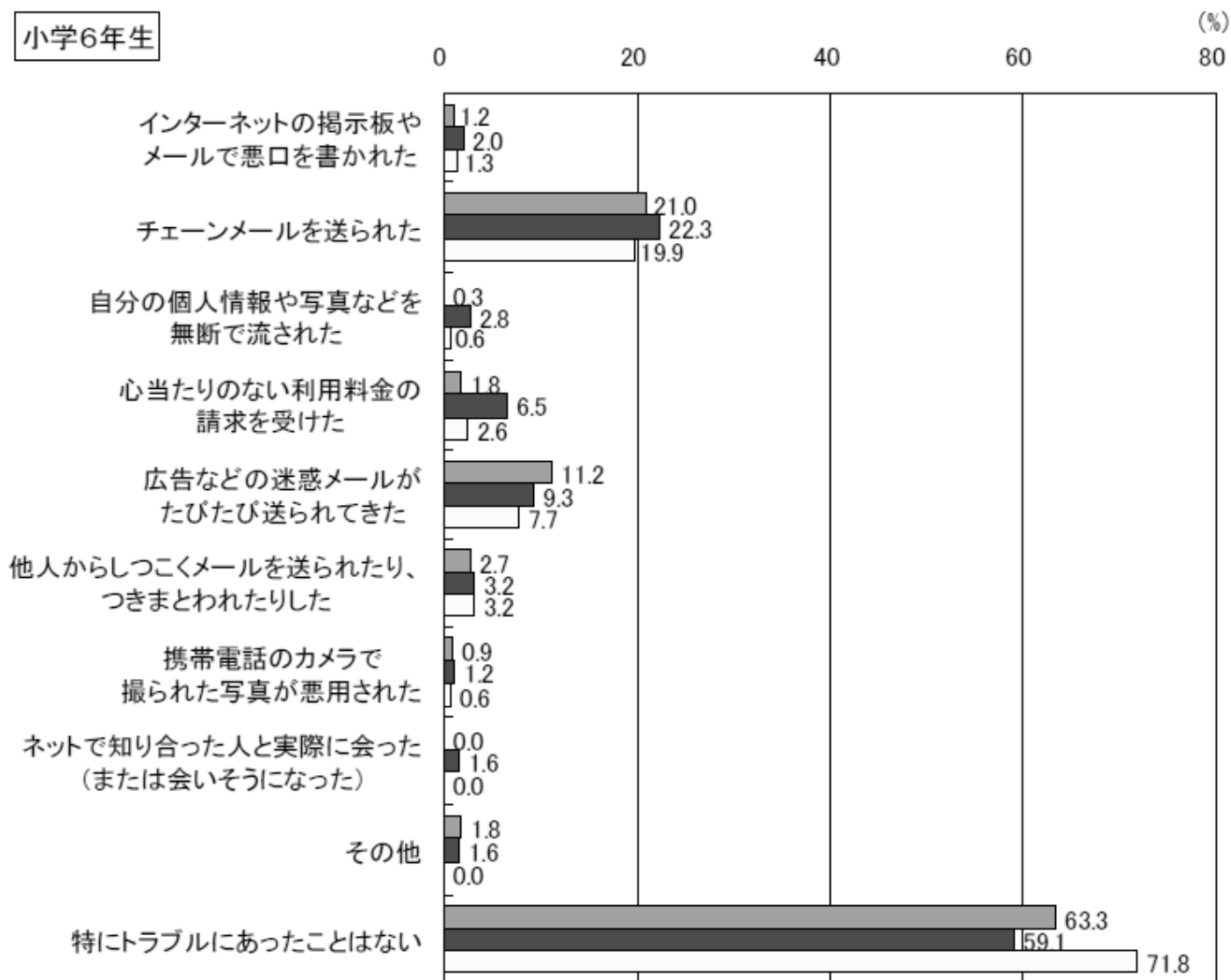
## [6] ケータイトラブルに巻き込まれた方の割合

ケータイ保持者のうち、ケータイ利用に係るトラブルに巻き込まれたことがある方の割合。



参考「文科省調査」調査結果の概要 P.38 「携帯電話の利用によるトラブル（フィルタリング有無別）」－「小学6年生」抜粋

小学6年生



■ フィルタリングを使用している (n=338)  
 ■ フィルタリングを使用していない (n=247)  
 □ インターネットが使えない機種・設定になっている (n=156)



## 〔本市の現況〕

「ケータイ利用に係るトラブルに巻き込まれたことがある」と答えた人がいなかったのは幸いです。しかし、子どもが「トラブルに巻き込まれた」ことを話さなかったという場合もあるかもしれないので安心はできません。

## 〔全国調査との比較〕

「文科省調査」によると、小学 6 年生で、フィルタリングを使用している子どもは、使用していない子どもに比べて「チェーンメールを送られた」（使用している子 21%、使用していない子 22.3%）、「心当たりのない利用料金の請求を受けた」（使用している子 1.8%、使用していない子 6.5%）などと、割合が少ない結果が出ています。

## 〔考察〕

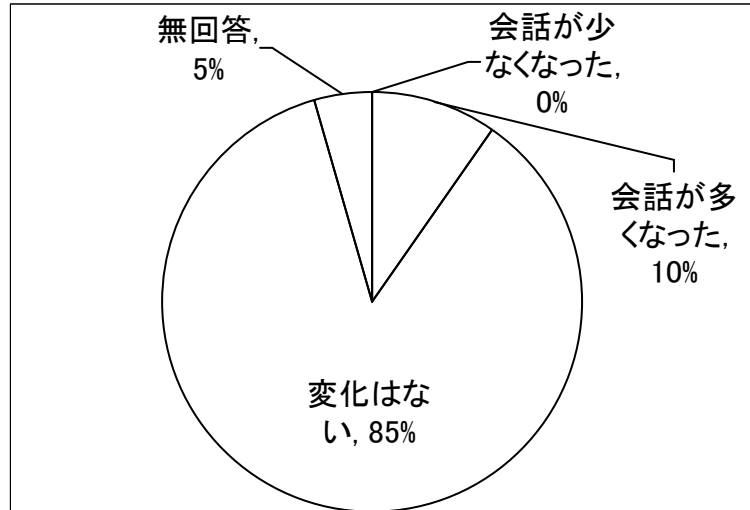
ケータイトラブル問題が起きてくるのは、多くは中学生以上ですが、トラブルに巻き込まれる年齢が若年化しているので、小学生の段階からフィルタリングの使用などの対策に注意を喚起する必要があるようです。

### ＜課題＞

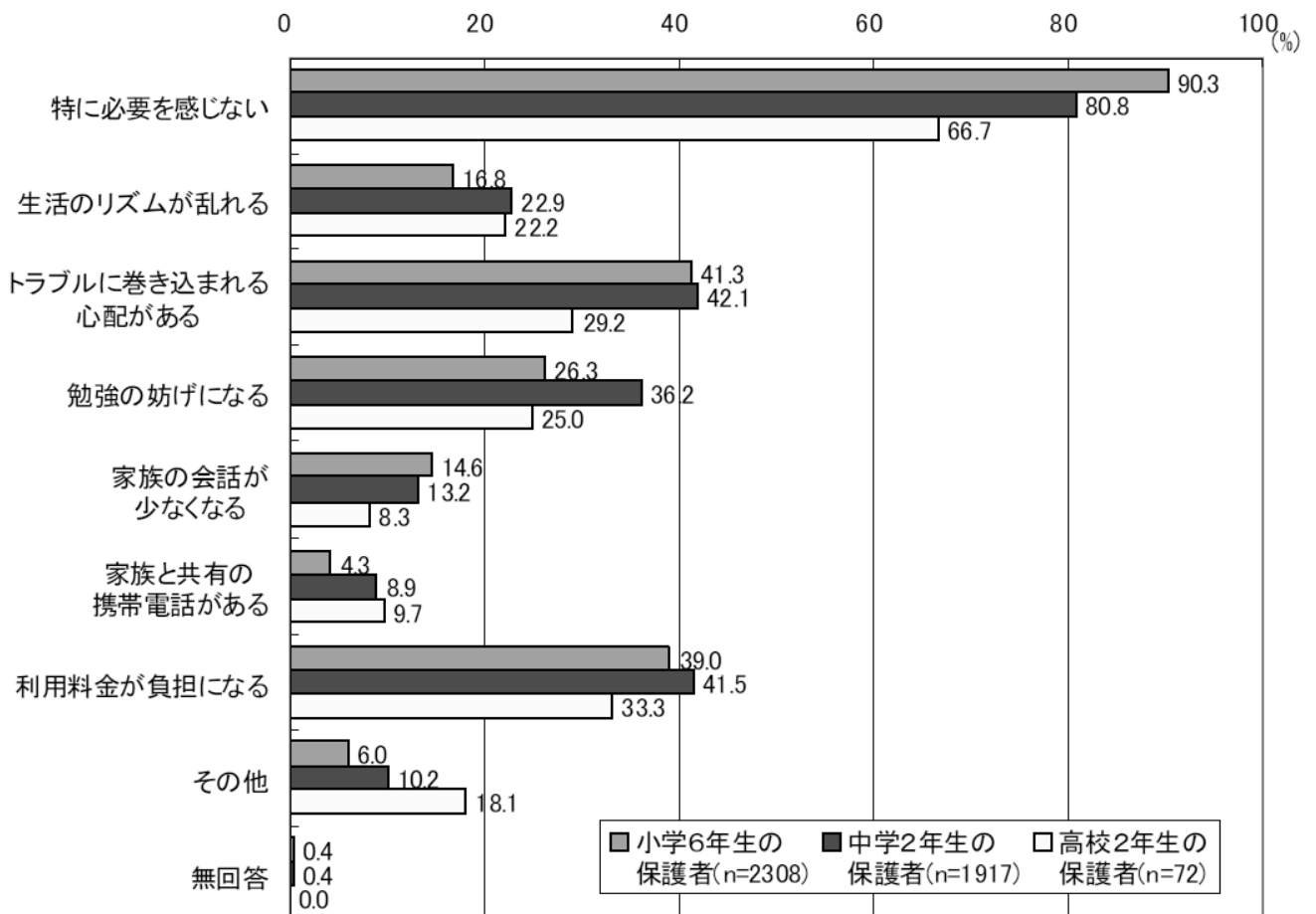
- ・ ケータイには必ずフィルタリングを使用して、外さないようにしましょう。
- ・ ケータイのトラブルに巻き込まれた場合の解決方法を学んでおきましょう。
- ・ 学校や家庭、子ども会などの地域で、ケータイについて学ぶ機会を作り、子どもたちと一緒に、親や教師もケータイの学習をする必要があります。

## [7] 親子の会話の変化

ケータイ保持者のうち、ケータイを使うようになってからの親子間での会話の変化。



参考「文科省調査」調査結果の概要 P.10 「子どもに携帯電話を持たせていない理由（複数回答）」抜粋



### [本市の現況]

「会話が多くなった」のが10%もあったことは予想外でした。ケータイによって親子間の会話が増えてくれることは望ましいと思います。ただし、会話の内容が単なる連絡だけという場合もあるので、一家団欒に貢献するまでとはいえないかもしれません。

### 【全国調査との比較】

先に示した「文科省調査」の設問で、「子どもに携帯電話を持たせない理由」で、「特に必要を感じない」、「トラブルに巻き込まれる心配がある」、「利用料金が負担になる」の順でしたが、その次に「勉強の妨げになる」26.3%、「生活のリズムが乱れる」16.8%、「家族の会話が少なくなる」14.6%となっていたので、注目したいと思います。

### 【考察】

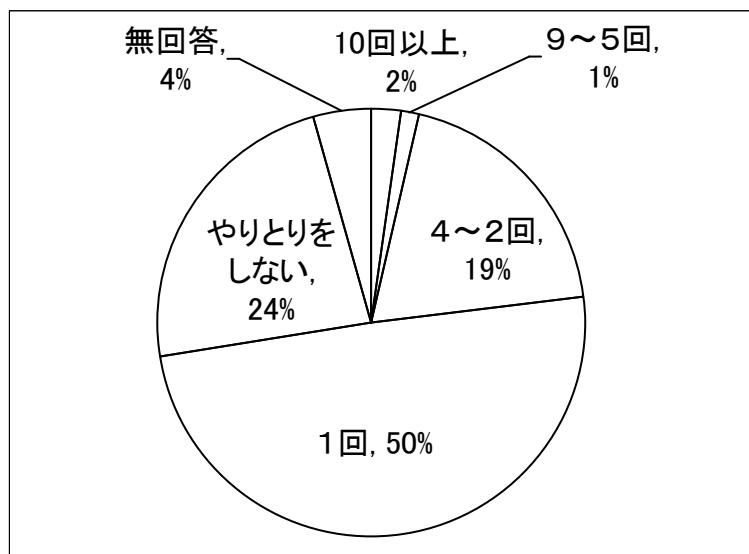
実は、本市のアンケートのこの設問（ケータイを使うようになってからの親子間での会話の変化）を設けたのは、「我が子にケータイを与えたら、親子の会話が少なくなった」という市民の声を耳にしたのがきっかけでした。小学生だけを対象にした本市のアンケートには出てこなかったのですが、中学生以上になると、「ケータイによって親子の会話が少なくなる」傾向があるかもしれません。

#### ＜課題＞

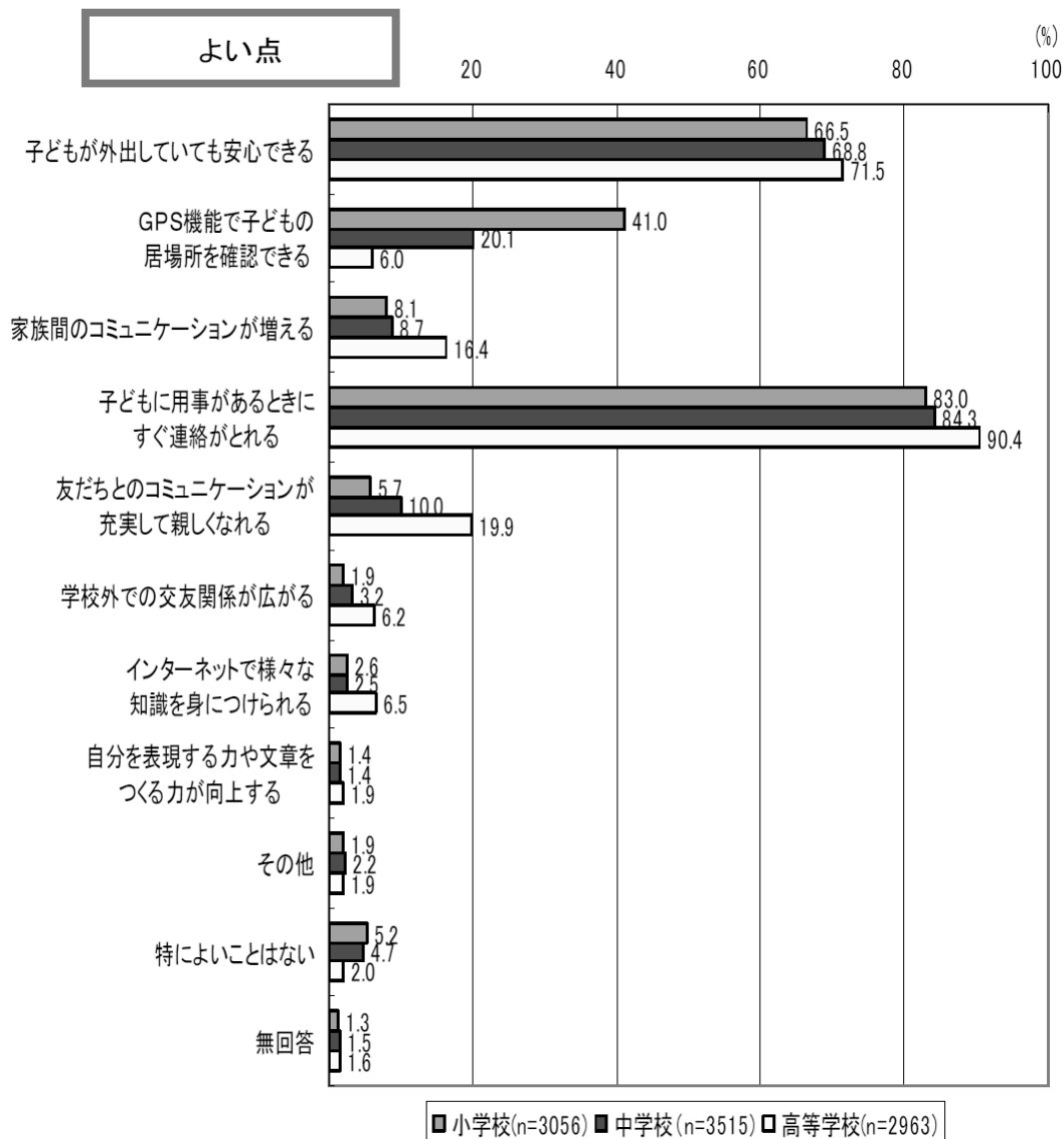
- ・ ケータイに頼らないで、親子の直接会話をするように努めましょう。
- ・ 中学生以上になると親子の会話が少なくなるので、ケータイの使い方によっては親子の会話を補う使い方ができるかもしれません。

**[8] 親子間の、ケータイメール・電話でのやり取りの回数**

ケータイ保持者のうち、ケータイのメールや電話での親子間でのやり取りの回数（1日）。（お子さん全体での回数）



参考「文科省調査」調査結果の概要 P.21 「携帯電話に対する評価（よい点・心配な点）（保護者）」－「よい点」抜粋



## 【本市の現況】

〔7〕親子の会話の変化に対する答えを裏づけしてくれるように、「ケータイのメールや電話での親子間でのやり取りの回数」が10回以上の世帯が、2%もありました。4分の3の家庭でケータイでの親子の「やりとり」をしています。「やりとり」の内容が温かいものであってほしいと思います。

## 【全国調査との比較】

「文科省調査」で、親に対してケータイを子どもに持たせて「よい点」は何か、との設問の答えでは、「子どもに用事があるときにすぐ連絡がとれる」83.0%、「子どもが外出していても安心できる」66.5%、「GPS機能で子どもの居場所を確認できる」41.0%の順になっています。

## 【考察】

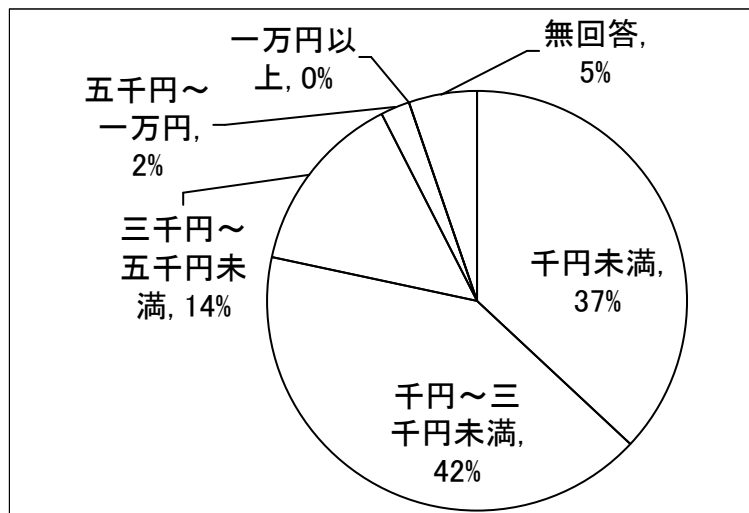
ケータイでの「やりとり」の内容が温かいものであってほしいという私たちの願いの方向に進んでほしいのですが、現実には厳しいようです。親は「居場所確認」、「連絡」の道具として活用して、子どもの方も親との「連絡」の道具に使っているかもしれません。心配なことは、例えばケータイを利用して、外出先を偽って親に連絡をするような「隠れ蓑」として活用することも可能だということです。

### ＜課題＞

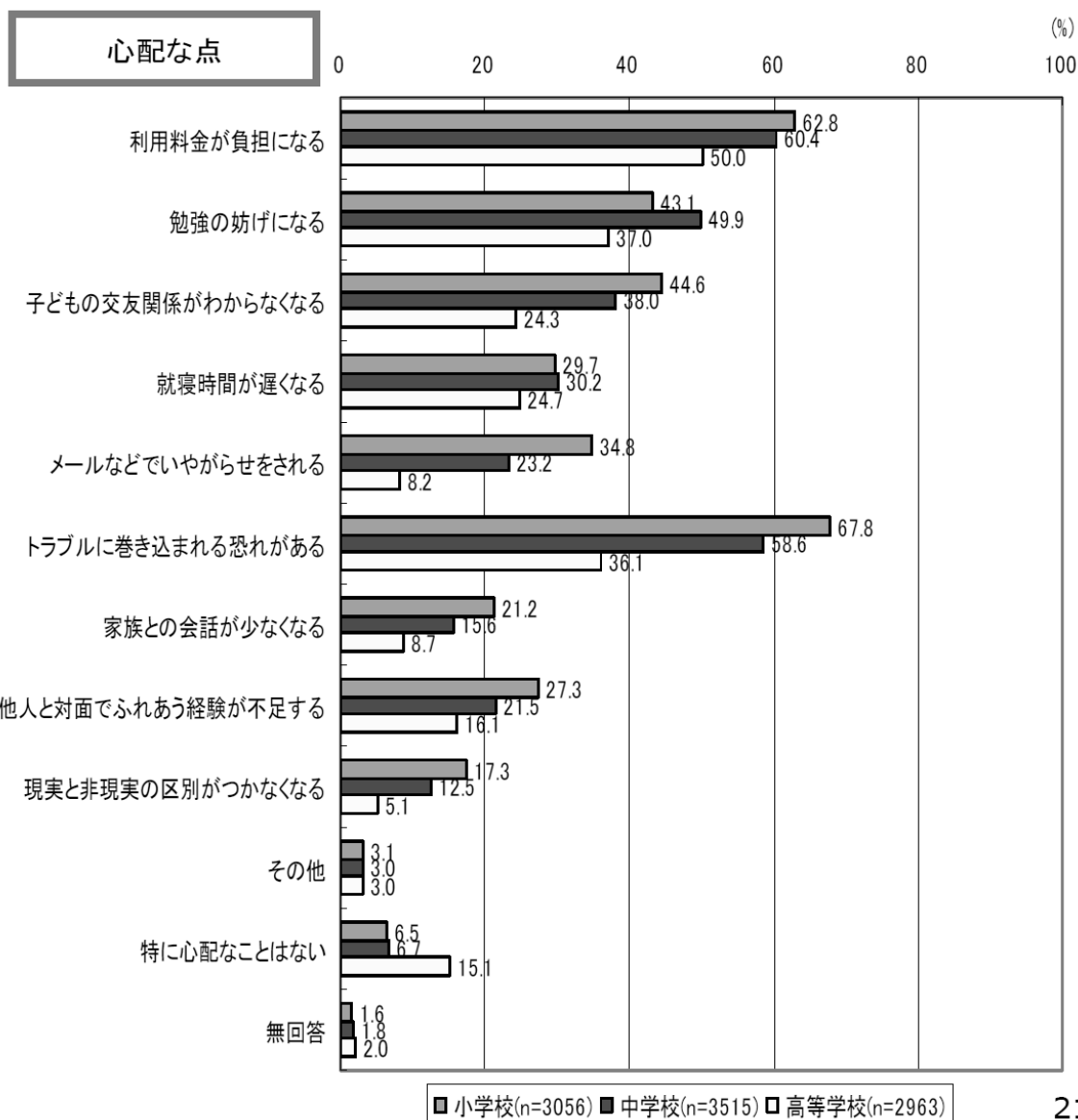
- ・ ケータイを、子どもの居場所確認、連絡の道具として活用している場合が多いです。
- ・ ケータイでは、子どもの表情がわからないので、ケータイだけに頼らずに子どもの様子を直接見る努力をしましょう。

### [9] 一ヶ月のケータイ利用料金

ケータイ保有者のうち、一ヶ月のケータイ利用料金。(お子さん全員の合計)



参考「文科省調査」調査結果の概要 P.21 「携帯電話に対する評価(よい点・心配な点)(保護者)」－「携帯電話のよい点・心配な点について(全員に質問(複数回答))」－「心配な点」抜粋



### 【本市の現況】

子どもが小学生であるから一ヶ月のケータイ利用料金としては、妥当な数字かもしれませんが。

### 【全国調査との比較】

「文科省調査」で、親に対してケータイを子どもに持たせて「心配な点」は何か、との設問の答えで一番が「トラブルに巻き込まれる恐れがある」67.8%で、二番目が「利用料金が負担になる」62.8%となっています。

### 【考察】

最近では、パケット通信料金など一定料金に制限されるようになったので、以前のようなとんでもない高額請求はなくなっています。しかし、パケット通信料金の高額利用の防止策が必要になるなど油断ができません。中学生以上になると、子どものケータイ利用料金の親の負担が家計を圧迫する場合もあるので、注意を要します。

#### ＜課題＞

- ・ 子どもだけで「ケータイのネット遊び」をさせることはやめましょう。
- ・ 子どものケータイの使用料金が適正かどうか常にチェックしましょう。
- ・ ケータイやパソコンについて、子どもの意見も取り入れて「我が家の約束」を決めるなどして、親子で納得できる雰囲気を作っておく必要があります。

## [10] 其他のご意見

自由記述のご意見欄の記載内容。

No.	記述	件数
1	便利だが小学生には必要ない	4
2	親子間等指定箇所通話のみに設定している	2
3	物騒なので、GPS や塾帰り等のお迎え連絡等使いたい時もある	2
4	高校生からの所持でよい	2
5	友達が持っており、購入したいといわれ困っている	2
6	発着信規制や、GPS で居場所がわかるので安心、緊急時に便利なので学校に持たせたい	2
7	キッズ携帯なので発着信規制ができるし、GPS で居場所がわかるので安心	1
8	しばらく必要ない。小中学校・習い事は近いので	1
9	家の電話を使用させている。携帯は不要	1
10	料金を自分で支払えるようになったら持たせても良い	1
11	プリペイド式携帯を使用している。お勧め	1
12	連絡手段として活用	1
13	携帯電話の強い電磁波の健康への影響が心配	1
14	中学校では持っている子と持っていない子に分かれてしまうのが心配。統一してほしい	1
15	高校生までは禁止の法律がほしい	1
16	子供が持つことには反対。将来持たせるときはルールやマナーを教えたい。	1
17	持たせているが、子どもが持ち歩かなくなったので解約予定	1
18	直接言葉でコミュニケーションをとることが大事	1
19	子どもが出かけるときや、親の仕事先への連絡に必要	1
20	祖父母が買い与えて失敗した。現在は使用額を減らすよう指導している。	1
21	母親の携帯を使わせて、オープンでやっている。	1
22	通話・メール・GPS の最低限の機能だけあればよい	1
23	GPS や防犯ブザーなど、防犯面でとても役に立っている	1
24	てんかん発作があるため、緊急用に持たせたい	1
25	小中学生には必要ないと思うが、まわりが持っていると言影響されるので不安	1
26	今回のような災害時に役に立つ	1
27	ルールをきちんとさせて使用させます	1
28	このアンケートの結果は見れるのでしょうか	1
	計	36

自由記述で一番多かったのが「便利だが小学生には必要ない」という迷いのない言葉でした。それとは逆に「友達が持っており、購入したいといわれ困っている」や「小中学生には必要ないと思うがまわりが持っていると言影響されるので不安」という動揺する親心もありました。また、「祖父母が買い与えて失敗した。現在は使用額を減らすよう指導している。」、「持たせているが、子どもが持ち歩かなくなったので解約予定」など経験を生かした考えもありました。「料金を自分で支払えるようになったら持たせても良い」や「ルールをきちんとさせて使用させます」のような親の信念を感じずる意見もあり、ケータイについての様々な受けとめ方があることがわかりました。



**お子さまのケータイ等に関するアンケートのお願い**

いま、多くの子どもたちがケータイを持っていますが、ケータイでトラブルに巻き込まれる事例が増加しています。被害が小学生に及ぶこともあり、その対策が緊急の課題になっています。そこで、私たちひたちなか市の社会教育委員は、実態調査のため子ども会の役員の方々へ、小学生の子どもたちについてのアンケートをお願いすることに致しました。

このアンケートの結果は、統計として全体の傾向を把握するために使用し、個人的な情報の扱いは致しません。大変お手数ですが、下記のアンケートにご回答ください。(以下の設問の該当する選択肢の番号を○でかこんでお答えください。)

ひたちなか市社会教育委員会議 議長 儘田茂樹

(1) あなたのお子さんは何年生ですか。(複数回答可)

小学 [ 1 , 2 , 3 , 4 , 5 , 6 ] 年生 → 計( \_\_\_\_\_ 人)

(2) おさんはケータイをお持ちですか。また、そのおさんは何年生ですか。(複数回答可)

1、持たせている (持たせている子どもは [ 1 , 2 , 3 , 4 , 5 , 6 ] 年生) 2、持たせていない

(3) 「持たせていない」と答えた方にお尋ねします。持たせないのはなぜですか。

1、持たせる必要がない 2、デメリットが多い 3、その他( \_\_\_\_\_ )

<以下、「持たせている」と答えた方にお尋ねします。>

(4) おさんがお持ちのケータイに、「フィルタリング」をかけていますか。

1、かけている 2、かけていない 3、わからない

(5) おさんがケータイを使う際の、ルールやマナーの指導をしていますか。

1、指導をしている 2、指導をしていない

(6) おさんは、ケータイを使って「ネットショッピング」をしたことがありますか。

1、したことがある 2、したことがない 3、わからない

(7) おさんは、ケータイを使って、トラブルに巻き込まれたことがありましたか。

1、巻き込まれたことがあった 2、巻き込まれたことはない 3、わからない

(「巻き込まれたことがあった」内容は・・・ \_\_\_\_\_ )

(8) おさんがケータイを使うようになってから、親子の会話に変化がありましたか。

1、会話が少なくなった 2、会話が多くなった 3、変化はない

(9) 親子間の、ケータイのメールや電話でのやりとりは、一日に何回くらいですか。(おさん全員の回数)

1、10回以上 2、9~5回 3、4~2回 4、1回 5、やりとりをしない

(10) おさん全員の、一ヶ月にかかるおよそのケータイ利用料金を教えてください。

1、千円未満 2、千円~三千円未満 3、三千円~五千円未満  
4、五千円から一万円 5、一万円以上

(11) ご意見がありましたら、以下にご自由にお書き下さい。

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_